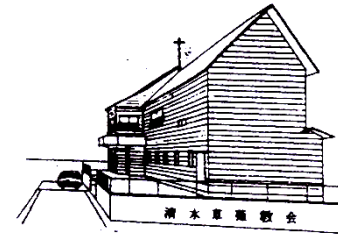


# 週報

2008年 6月 29日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリースタジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

牧師 村上定幸

《来週の聖書から》来週は「ヨハネによる福音書」6:16～21が開かれます。記録されている出来事は実に簡単な物語で、嵐の海（ガリラヤ湖）に船を漕ぎだしましたが、今にも沈みそうになった時、イエス様が海の上を歩いて船に近付かれ、彼ら（弟子達）を助けられ、嵐も静まったというのです。四つの福音書には、このような不思議な出来事（奇跡）が沢山記されています。その量は思っているよりも多くて、分量でいって半分近くになるかもしれません。いつか聖書を開きましたが、最初に弟子達を導かれたときも、漁師の想像を超えるような豊漁の軌跡が記されています（ルカ5:6、マルコでは招きのみによっています）。沢山の奇跡をイエス様はおこなわれましたが、よく聖書を読んでみると、自然現象に関する奇跡は、弟子達にだけ示されていることが分かります。沢山の奇跡といえるような、しるし・力・業と聖書が言っている事柄に心を向けることはとても楽しいことです。何故楽しいのでしょうか。ただの不思議や手品や神通力といえるようなことだったら、びっくりするかもしれませんが、聖書をただの「怪しいことをするイエス様の物語」にしてしまいます。ただのまじない（とかイリュージョン）だったら、聖書は逆にこのことを禁止しています。ガラテヤ5:20では、まじないを“敵意”と同じように禁止しています。イエス様は、この少し前、ヨハネ5:20では“あなたがたがそれ（神様の業）によって不思議に思うからである”と記されています。聖書の奇跡とは、その軌跡が実際にあったわけではなく、なにかを教えるために、足し加えられた物語である。といってしまうこともあるようですし、また水上を歩かれた物語も、実際は栈橋のような、くいの上を歩いてこられたことと、天候の急変が重なって、ひとつの言伝えになったのだ、などなど、全ての奇跡物語を人が理解できる範囲のことによって説明しようとすることもあります。しかし聖書は私たちの救いの書、神の約束の書であり、信仰をもって読まれる書物でなくてはなりません。記述を救いと理解することはできません。十字架に至るまで神さまの業に驚くことをやめ、“ともにイエス様がいてくださること”から離れてはいけません。そして嵐が強ければ強いほど、艱難が激しい時にこそイエス様は、今もわれわれに伴っていてくださるのです。